

2010年10月27日
株式会社日立製作所

仮想ファイルプラットフォーム「Hitachi Virtual File Platform」を販売開始

コンテンツデータの一元管理とストレージ容量の柔軟な利用を可能とするコンテンツクラウドを実現



仮想ファイルプラットフォーム「Hitachi Virtual File Platform」
(左:ストレージセットモデル、右:ゲートウェイモデル)

株式会社日立製作所(執行役社長:中西 宏明/以下、日立)は、このたび、メールや画像、映像などのコンテンツデータ^{(*)1}を集約し、データの一元管理とストレージ容量の柔軟な利用を可能とするコンテンツクラウドを実現する仮想ファイルプラットフォーム「Hitachi Virtual File Platform(日立バーチャルファイルプラットフォーム)」(以下、「VFP」)を製品化し、11月1日から提供を開始します。あわせて、本製品の導入検討から構築、運用までのシステムライフサイクル全体を支援するサービス「Hitachi Virtual File Service(日立バーチャルファイルサービス)」をメニュー化し、11月1日から提供を開始します。

*1 コンテンツデータ :データベースなど構造化されたデータ(構造化データ)に対し、コンテンツをそのまま利用できる状態でファイルとして管理するデータ(非構造化データ)

近年、情報配信サイトやスマートフォンなどインターネットを利用したサービスの普及などにより、メールや画像、映像といったコンテンツデータを中心に企業が取り扱うデータ量は急激に増加しています。それに伴い、コンテンツデータを管理するファイルストレージ装置の増加、分散も進み、システムの導入や運用にかかる管理者の負荷が大きくなっています。さらに、多様な業務アプリケーションごとに異なるデータの属性や種類に応じてストレージシステムを構築するため、システムが複雑化するなど、システム全体を踏まえたストレージ容量の効率的な運用が課題となっていました。

今回製品化した「VFP」は、コンテンツデータの集約やストレージシステムの統合を可能とするファイルストレージ装置です。ファイルシステム^{(*)2}容量を従来製品^{(*)3}比約60倍、業界最大^{(*)4}の1PB(ペタバイト)まで拡張でき、大量のデータを同一ファイルシステムで扱うことができます。これにより、散在する複数のファイルシステムを集約でき、システム設計や構成変更に伴う運用管理の負担を軽減します。

さらに、従来のファイルストレージ装置で利用するアクセスプロトコルに加え、データベースなどの構

造化データを扱う SAN(Storage Area Network)ストレージ装置で利用するアクセスプロトコルに新たに対応し、ファイルストレージ装置と SAN ストレージ装置を統合するユニファイドストレージシステムを実現します。業務アプリケーションの種類を問わずデータアクセスを集約して 1 つのシステムとして管理でき、設備投資や運用管理コストを削減します。

*2 ファイルシステム :ファイルストレージ装置においてデータを管理する領域

*3 2007 年 11 月 13 日発表、「Hitachi Essential NAS Platform」

*4 2010 年 10 月 26 日現在、日立調べ

なお日立は、データセンターに集約されたデータを複数の拠点・部門から、データの格納場所を意識することなく透過的にデータアクセスし、業務に利用できるファイル仮想化機能を 2011 年 2 月に追加する予定です。本機能を活用することで、拠点・部門に設置された「VFP」がクラウド環境の入り口 (Cloud on-Ramp)として機能し、データセンターでのデータ集約・一元管理を実現します。さらに、情報の利用価値とユーザーのポリシーに基づき、最適なストレージ階層(記憶媒体)へデータを自動的に格納する制御機能を追加するなど、コンテンツクラウド向けの機能を拡張していく予定です。

日立は、新ストレージソリューションビジョン「Data Drives Our World and Information is the new currency」(データは世界を動かす そして、情報は新しい価値を生み出す)のもと、今回発表した新製品を核として、データの有効活用と TCO 削減の実現により企業競争力を向上するストレージソリューションを提供していきます。

■新製品、サービスの特長

1. 仮想ファイルプラットフォーム「Hitachi Virtual File Platform」

「VFP」は、データ格納処理を担う「VFP」ノードとミッドレンジディスクアレイ「Hitachi Adaptable Modular Storage 2000 シリーズ(日立アダプタブルモジュラーストレージ 2000 シリーズ)」とをセットで提供し迅速なシステム導入を可能とする「ストレージセットモデル」と「VFP」ノード単体で提供する「ゲートウェイモデル」があります。

(1)高拡張性・高性能の実現

今回、ファイルシステムの容量を従来製品比約 60 倍、業界最大の 1PB まで拡張します。従来、大量のデータを同一ファイルシステムで扱うことができず、複数のファイルシステムに分散していたためシステム設計や構成変更に伴う運用管理が煩雑でしたが、今回の拡張により、ファイルシステムを統合でき、システム設計・運用管理の負担を軽減します。また、ファイルシステムの容量仮想化機能により、あらかじめ設定した大きなファイルシステム仮想容量から、必要となるたび、物理容量を追加でき、ストレージ容量の有効活用が可能となります。さらに最新プロセッサの採用などにより、従来製品比約 2 倍にシステム処理性能を向上します。

(2)多様なアクセスプロトコルに対応可能なユニファイドストレージシステムを実現

ファイルストレージで利用されるアクセスプロトコルである CIFS^(*5)や NFS^(*6)に加え、SAN ストレージで利用されるファイバチャネル、iSCSI^(*7)インタフェースに対応し、ファイルストレージと SAN ストレージを 1 つのシステムに統合するユニファイドストレージシステムを実現します。データベースとファイル共有などのデータ種類の異なるアプリケーションからのアクセスに対し、個別にシステムを構築することなくデータアクセスを集約して管理できるため、拠点・部門内に散在するストレージシステムを集約でき、設備投資や運用管理コストを削減します。

*5 CIFS : Common Internet File System の略で、Windows[®]のファイル共有サービスで利用されているアクセスプロトコル

*6 NFS : Network File System の略で、UNIX システムで利用されているアクセスプロトコル

*7 iSCSI : Internet Small Computer System Interface

2. ストレージサービス「Hitachi Virtual File Service」

「VFP」によりストレージシステムを集約、統合した際の効果の可視化や「VFP」を活用したシステム構成の最適化など、ファイルストレージにおける投資効果の最大化を支援するサービスを提供します。

(1)「エコノミクスサービス (Hitachi File Storage Economics service)」

「VFP」の導入効果を可視化するサービスです。「VFP」の導入によるストレージシステムの集約、統合と仮想化機能の活用によるコスト低減効果を算出して報告します。

(2)「アセスメントサービス (Hitachi File Storage Assessment service)」

「VFP」の導入構成の最適化を支援するサービスです。ユーザーの既存環境の調査に基づき仮想化機能を活用したストレージシステムの最適構成を提案します。

(3)「マネージドサービス (Hitachi File Storage Managed service)」

「VFP」の維持運用を効率化するサービスです。「VFP」の稼働状況レポートの定期的な提供や状況に応じたストレージの構成変更などを行い、ストレージシステムの運用・改善を支援します。

■製品の価格・出荷時期

1. 仮想ファイルプラットフォーム「Hitachi Virtual File Platform」

名称	概要	価格(税込)	出荷時期
「Hitachi Virtual File Platform」	ストレージセットモデル 2ノードクラスタ構成 搭載メモリ 12GB/クラスタ～ 物理容量 584GB～	884万 3,100円～	2010年 11月1日
	ゲートウェイモデル 2ノードクラスタ構成 搭載メモリ 12GB/クラスタ～	552万 6,150円～	

2. ストレージサービス「Hitachi Virtual File Service」

名称	概要	価格(税込)	提供時期
「エコノミクスサービス」 (Hitachi File Storage Economics service)	「VFP」による集約、統合と仮想化機能活用によるコスト低減効果を算出・報告し、「VFP」の導入効果を可視化	個別見積	2010年 11月1日
「アセスメントサービス」 (Hitachi File Storage Assessment service)	ユーザーの既存環境の調査に基づき、ファイル仮想化機能を活用したストレージシステムの最適構成を提案、「VFP」導入構成の最適化を支援		
「マネージドサービス」 (Hitachi File Storage Managed service)	「VFP」の稼働状況レポートの定期的な提供、ストレージの構成変更など、ストレージシステムの運用・改善を支援し、「VFP」の維持運用を効率化		2011年 1月31日

■日立ストレージソリューションのホームページ

<http://www.hitachi.co.jp/storage/>

■他社商標注記

- ・Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- ・UNIX は、The Open Group の米国ならびに他の国における登録商標です。
- ・記載の会社名および製品名は、各社の商標もしくは登録商標です。

■取り扱い事業部・照会先

<仮想ファイルプラットフォーム「Hitachi Virtual File Platform」>

株式会社日立製作所 情報・通信システム社

RAID システム事業部 ファイルストレージ開発本部 アーキテクチャ開発部[担当:小笠原]

〒250-0872 神奈川県小田原市中里 322-2

TEL:0465-49-1111(大代表) 内線 5379

<ストレージサービス>

株式会社日立製作所 情報・通信システム社

プラットフォームソリューション事業部

〒140-0013 東京都品川区南大井六丁目 26 番 3 号(大森ベルポート D 館)

お問い合わせフォーム:<http://www.hitachi.co.jp/pss-inq/>

以上

【添付資料】

■「Hitachi Virtual File Platform」の製品仕様

1. ストレージセットモデル

項目		仕様		
製品名称		Hitachi Virtual File Platform 2010	Hitachi Virtual File Platform 2100	Hitachi Virtual File Platform 2300
構成		2 ノードクラスタ	2 ノードクラスタ	2 ノードクラスタ
構成ストレージ		Hitachi Adaptable Modular Storage 2010	Hitachi Adaptable Modular Storage 2100	Hitachi Adaptable Modular Storage 2300
搭載メモリ		12GB/クラスタ	24GB/クラスタ	
I/O インタフェース (クラスタあたり)	ギガビットイーサネットポート (GbE:Copper)	標準: GbE x 8 最大: GbE x 16		
	ファイバチャネルポート/ iSCSI ポート	—	標準: — 最大: ファイバチャネル x 4 または、iSCSI x 4	標準: ファイバチャネル x4 最大: ファイバチャネル x12 または、 ファイバチャネル x4+iSCSIx4
容量	最大搭載 ディスクドライブ数	60	120	240
	物理容量 ^{(*)1}	~118.1TB	~236.2TB	~472.4TB
外形寸法(mm)(WxDxH)		600x1050x820 (16U ラック) 600x1050x1895 (38U ラック)	600x1050x1895 (38U ラック)	
質量(kg)		約 214kg(16U ラック) ^{(*)2} 約 297kg(38U ラック) ^{(*)2}	約 297kg(38U ラック) ^{(*)2}	
消費電力(W)		3,533W 以下(最大構成時)	5,373W 以下(最大構成時)	9,053W 以下(最大構成時)
省エネ法に 基づく表示 (2007 年度 規定)	区分	i		
	エネルギー 消費効率 ^{(*)3}	0.032	0.025	0.021

2. ゲートウェイモデル

項目		仕様		
製品名称		Hitachi Virtual File Platform 100N	Hitachi Virtual File Platform 300N	Hitachi Virtual File Platform 500N
構成		2 ノードクラスタ	2 ノードクラスタ	2 ノードクラスタ
搭載メモリ		12GB/クラスタ	24GB/クラスタ	48GB/クラスタ
I/O インタ フェース (クラスタ あたり)	ギガビット イーサネット ポート (GbE:Copper) (10GbE:Optical)	標準: GbE x 8 最大: GbE x 16		標準: GbE x 8 または 10GbEx2 最大: GbE x 16 または GbEx8+10GbEx2 または 10GbEx4
	ファイバ チャネルポート /iSCSI ポート	接続するストレージに依存		
容量	最大搭載 ディスクドライブ 数	接続するストレージに依存		
	物理容量 ^(*)	最大 15PB(接続するストレージに依存)		
外形寸法(mm)(WxDxH)		485x770x260 ^(**4)		
質量(kg)		約 81kg ^(**4)		
消費電力(W)		1,413W 以下 ^(**4)		
省エネ法に 基づく表示 (2007 年度 規定)	区分	c		
	エネルギー 消費効率 ^(**5)	0.0072		

*1 1K バイト=1,000 バイトとして計算した値です。

*2 2 ノードクラスタ、LAN スイッチ、キーボード/ビデオ/マウス(KVM)スイッチ、ストレージ、ラックを含めたシステムの値になります。なお、接続ストレージについては、基本筐体の最大構成(搭載可能なディスク、冗長コントローラなどすべてを搭載)を含めたものになります。

*3 ストレージセットモデルにおいて、エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定された消費電力を省エネ法で定める記憶容量で除したものです。

*4 2 ノードクラスタ、LAN スイッチ、キーボード/ビデオ/マウス(KVM)スイッチを含めた値になります。

*5 ゲートウェイモデルにおいて、エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定された消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。

以上

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
